

令和5年定例会 2月定期議会
産業建設常任委員会調査報告書

令和5年3月10日

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会 活動状況

〔報告期間〕 令和4年12月2日～令和5年2月1日

日 時	活動区分	内 容	頁
12. 2 (金) 11:10～11:38	協 議	<p>《委員のみ》</p> <p>■12月定期議会中における調査事項について</p> <p>〔出席者〕 佐々木委員長ほか委員7名</p>	-
12. 7 (水) 9:59～16:20	所管事務調査① (議案調査)	<p>《産業経済部》</p> <p>■指定管理者の指定について(米山産地形成促進施設及び米山西野農村公園)</p> <p>■指定管理者の指定について(豊里地域産物活用施設)</p> <p>■指定管理者の指定について(津山木工加工研修施設)</p> <p>■指定管理者の指定について(登米森林公園)</p> <p>■指定管理者の指定について(とよま観光物産センター、春蘭亭、登米寺池城址公園、登米駒つなぎの広場、歴史資料館及び登米市高倉勝子美術館)</p> <p>■指定管理者の指定について(東和物産館及び東和活性化施設)</p> <p>■指定管理者の指定について(もくもくランド)</p> <p>■指定管理者の指定について(登米市道の駅三滝堂地域活性化施設)</p> <p>■令和4年度登米市一般会計補正予算(第8号)</p> <p>〔出席者〕 佐々木委員長ほか委員7名 産業経済部 遠藤部長ほか6名</p>	-
	協 議	<p>《委員のみ》</p> <p>■宮城県市議会議長会春季定期総会要望について</p> <p>■陳情・要望の取扱いについて</p> <p>〔出席者〕 佐々木委員長ほか委員7名</p>	
12. 9 (金) 9:58～11:20	所管事務調査② (議案調査)	<p>《建設部》</p> <p>■令和4年度登米市一般会計補正予算(第8号)</p> <p>〔出席者〕 佐々木委員長ほか委員7名 建設部 伊藤次長ほか6名</p>	-
	協 議	<p>■道の駅連絡協議会との意見交換会のふりかえり</p> <p>〔出席者〕 佐々木委員長ほか委員7名</p>	

日 時	活動区分	内 容	頁
12.13(火) 10:00~17:00	所管事務調査③ (現地調査)	<ul style="list-style-type: none"> ■令和4年7月の大雨被害からの災害復旧について (市道：上の山黄牛線) ■河川緊急浚渫推進事業による浚渫工事について (河川：小金沢川) ■道の駅津山 もくもくランドの災害復旧について ■蕪栗沼の現状と周辺河川の管理状況について ■長沼ダムについて <p>〔出席者〕 佐々木委員長ほか委員7名 建設部 伊藤部長ほか6名 産業経済部 佐藤地域ビジネス支援課長 宮城県東部土木事務所 登米地域事務所3名</p>	4
12.20(火) 10:00~16:15	所管事務調査④ (現地調査)	<ul style="list-style-type: none"> ■市内道の駅の現状について <p>〔出席者〕 佐々木委員長ほか委員7名 道の駅林林館 菅野駅長 道の駅津山 西條駅長 道の駅米山 山崎駅長 道の駅みなみかた 永浦駅長</p>	7

産業建設常任委員会 活動概要

【所管事務調査③（現地調査）】

1. 期 間：令和4年12月13日（火） 午前10時～午後5時
2. 場 所：市内現地
3. 事 件
 - (1) 令和4年7月の大雨被害からの災害復旧について（上の山黄牛線：津山町）
 - (2) 河川緊急浚渫推進事業による浚渫工事について（小金沢川：津山町）
 - (3) 道の駅津山 もくもくランドの災害復旧について
 - (4) 蕪栗沼の現状と周辺河川の管理状況について
 - (5) 長沼ダムについて
4. 参 加 者：委員長 佐々木幸一、副委員長 佐々木好博、
委 員 浅田琢哉、伊藤善博、岩渕正弘、佐藤千賀子、及川昌憲、
相澤吉悦

(建設部) 建設部長 伊藤 勝、建設部次長兼道路課長 細川宏伸、
建設総務課長 高橋浩昭、住宅都市整備課長 阿部信広、
住宅都市整備課 都市政策専門監 三浦訓徳、
道路課 用地専門監 須田英樹、建設総務課課長補佐 佐々木昭彦

(産業経済部) 地域ビジネス支援課長 佐藤貴光

(県東部土木事務所) 担当職員3名

(議会事務局) 政策・改革係長 主藤貴宏
5. 概 要：(別紙のとおり)
6. 所 見：(別紙のとおり)

○概要

近年、多発する大雨によって、市内でも多くの被害が生じている。

これまでの大雨被害からの復旧状況や、被害を未然に防止する対策について現地調査を実施した。

■令和4年7月の大雨被害からの災害復旧について（上の山黄牛線：津山町）



被災状況と復旧内容の説明を受ける



現在も未復旧の被災現場

■河川緊急浚渫推進事業による浚渫工事について（小金沢川：津山町）



河川緊急浚渫推進事業の説明を受ける



事業では、堆積土砂の撤去や支障木伐採を行う

■道の駅津山 もくもくランドの災害復旧について



災害復旧事業が完了したもくもくランド



新たに導入した木質バイオマスボイラー

■ 蕪栗沼の現状と周辺河川の管理状況について



県担当者から蕪栗沼遊水池の説明を受ける



大雨時には、空気を抜いて越流を促す

(所見)

令和4年7月の大雨による道路橋梁、河川の災害復旧事業について、津山町内の上の山黄牛線を調査した。大雨による被災箇所は、市内で600箇所にもものぼるが、復旧済が半数にも満たないことから、早期復旧に向けて計画的に対応されたい。

次に、国の河川浚渫推進事業を活用した河川について、同じく津山町内の小金沢川を調査した。本事業は、河川の堆積土砂の撤去や支障木の伐採などを推進し、氾濫等による被害の未然防止を図るもので、既に工事を終えているものも含めて令和5年度までに12河川が予定されている。年次別に計画的な整備を進められたい。

その後、蕪栗沼の現状と周辺河川の管理状況について調査した。本年7月の大雨で稲が枯死状態となった蕪栗沼遊水池を視察し、当時の対応状況等について、宮城県東部土木事務所登米地域事務所の職員も立ち合い検証した。

蕪栗沼遊水池は、平成12年3月に事業が完了し、4地区の遊水池があるが、初めて野谷地地区まで洪水が流入したと説明を受ける。県は、越流堤の操作も問題なく対応し、下流域の洪水抑止効果は大きかったと評価していた。また、上流域の支障木伐採は終了し、下流域も実施中であると報告される。

委員から、「今回の大雨による洪水は、蕪栗沼の土砂堆積や立木が貯水能力に影響しているのではないか」との意見に対し、県は「ラムサール条約との関連があるので、専門家の意見を聞きながら、まずは実地測量行う」との意向を確認した。

蕪栗沼周辺河川は、県内でも難治河川の1つであるが、総合的な対策で被害の軽減につながるよう期待したい。

産業建設常任委員会 活動概要

【現地調査④（現地調査）】

1. 日 時：令和4年12月20日（火） 午前10時～午後4時15分
2. 場 所：市内道の駅
3. 事 件
（1）市内道の駅の現状について
4. 参 加 者：委員長 佐々木幸一、副委員長 佐々木好博、
委 員 浅田琢哉、伊藤善博、岩渕正弘、佐藤千賀子、及川昌憲、
相澤吉悦

道の駅林林館 駅長 菅野忠美
道の駅津山 駅長 西條孝一
道の駅米山 駅長 山崎準一郎
道の駅みなみかた 駅長 永浦清太郎

（議会事務局）政策・改革係長 主藤貴宏
5. 概 要：（別紙のとおり）
6. 所 見：（別紙のとおり）

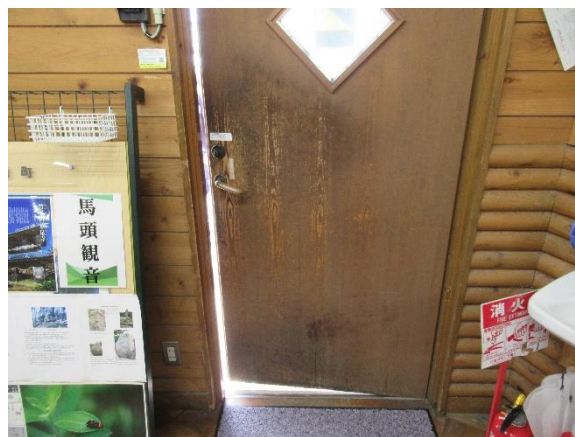
○概要

長引くコロナ禍や世界的な原材料価格の上昇等の状況下における市内道の駅の現状（売上げ、入込客数）や道の駅が抱える課題を把握することを目的として、11月21日に市内道の駅の駅長と意見交換を行った。その際に出された課題や道の駅の現状を把握するため、現地調査を実施した。

■道の駅 林林館



道の駅林林館は、主に地域住民の活動・交流の場として使用されている



築30年以上経過し、柱の腐食やドアの建付けが悪くなっているなど、老朽化が進んでいる

■道の駅 三滝堂



平日にも関わらず、駐車場はほぼ埋まっている



駐車台数が不足しているため、隣接する市有地の活用など、解消に向けた検討を進めるべき

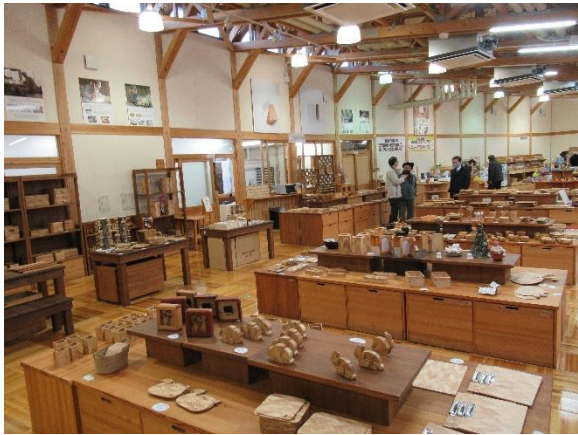


国管理側の駐車場には車止めがなく、車がぶつかりポールが曲がっている。車止めの設置を求めるべき



商品の量に対して、スペースが不足しており、店舗の拡張を検討する必要がある

■道の駅 津山



木工加工品と産直の販売スペースを共有させるなど、リニューアルした店内



外トイレの入口に屋根がないため、冬季は凍結による転倒のリスクがあり、対策が必要である



老朽化により、歩行中に段差が生じる木製通路。転倒のリスクがあり、対策が必要である

■道の駅 米山



道の駅米山では、少しずつイベントを再開し、集客回復に向けた取組を進めていた

■道の駅 みなみかた



道の駅みなみかたでは、天井の雨漏りなど施設の老朽化や会員の高齢化が課題

(所見)

本市には5つの道の駅が存在しており、いずれも「指定管理制度」による運営となっているが、三滝堂を除く4箇所は合併以前から運営されていたものである。

それぞれに特徴を持たせるべく、経営努力に励んでいるところであるが、合併後における本市の方向性としては「各町域の一体化」を目標とし、ほぼ一律的な方向性での運営がなされてきたことにより、各道の駅の特徴が薄れてしまった感がある。

また、各道の駅には産直も併設されているが、生産者の高齢化と担い手不足の課題が顕在化し、民間による自由競争という視点だけでは、今後の存続は厳しい状況になってくる。

単に道の駅という視点だけではなく、道の駅を地域活性化のために重要な役割を担う施設としてとらえ、本市全体における政策的視点で様々な課題解決に向けた努力を強く望む。